



ゲノム看護師のコンピテンシー

ゲノム解析の結果を解釈し、患者に起こりうるリスクや反応を予測しケアする。

がんゲノム医療の流れ 7Steps

方針決定をはじめ、各所において医師主導の下、スタッフは業務を遂行。



①窓口相談

患者本人への相談からはじまり、患者家族への配慮など、様々なケアを行った後、ゲノム医療実施に向けた受診を促す。



②遺伝子外来受診&同意取得

患者本人の状態・状況を確認。今後の治療方針決定から治療開始までに係る様々な要素を説明。その後、同意の取得を行う。



③生体試料採取

手術や内視鏡検査などの際、ゲノム解析に必要な生体試料を採取する。



④生体試料処理・核酸抽出

生体試料をゲノム解析可能な状態に処理する。処理後、核酸抽出。適切な処理や品質保持が解析後の精度に影響する。



⑤ゲノムシーケンス・データ解析

次世代シーケンサー (通称、NGS) を使用し、ゲノムのシーケンスならびにデータ解析を行う。



⑥レポートの作成&治療方針提案

カンファレンス (医師・医療従事者・バイオインフォマティシャンなどが参加) を実施し、解析データのレポート・報告書の作成を行う。



⑦患者説明

医師による「治療方針の説明」ならびに看護師による「患者ならびに家族の心と体のケア」を実施。

↓ 具体的には？

窓口相談&同意取得

ゲノム医療を希望する患者本人または患者家族に対し、ゲノム医療の流れからメリット・デメリットの説明、ゲノム医療ならではのケアを行う。患者に寄り添いながら看護師ならではの業務を実施。

生体試料採取

手術や検査以外に採血から生体試料を採取できるため、看護師が採血を行い、生体試料を採取する。



治療方針提案支援

主に患者本人の心身ならびに患者家族の状況に関する情報提供を行うなど、看護師だからこそ知り得る情報の把握・情報共有により、治療方針決定に向けた働きかけを行う。また、治療を進めるに際し、患者・家族のキーパーソン把握なども期待することである。

患者説明支援

医師の「治療方針の説明」後、治療を進めるに際し、患者・家族への心と体のケアを行い、ゲノム医療ならではのリスクや反応を予想してのケアを実施。



あなたなら、どうケアしますか？

遺伝子治療が進む今後、あなたはどのようにケアしますか？

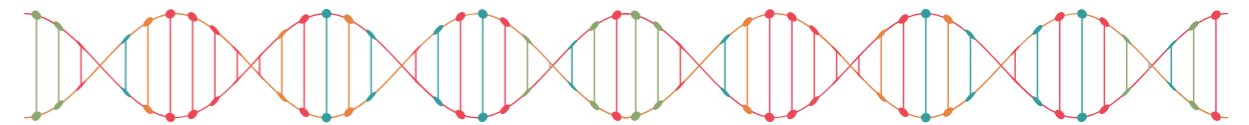
津島花子さん (42歳・女性・既婚) は乳がんと診断され、外科的切除を受けました。術後療法としてタモキシフェンを服用しています。花子さんには15歳と11歳の娘さんがいます。話を聞くと、花子さんのお母さんは卵巣がん、おばさんは乳がんと診断された事がありました。

花さんは先日のニュースで米国の有名女優が遺伝子検査の結果を受けて、予防的乳房切除を受けたことを知り、二人の娘さんに遺伝子検査を受けさせるかどうかを考えています。あなたは、どのような情報を提供し、どのようなケアを行いますか？

→ あなたのケア方法を教えてください

キーワード

- タモキシフェン
- 術後療法
- 予防的切除
- 遺伝カウンセリング
- 家族性腫瘍



A・Bの肺がん患者の術後治療から考えられる患者の特徴として適当なものを線で繋いでください。

A

津島花子さん (42歳・女性)
お子さん：一男一女
治療：イレッサ・タルセバ

B

鹿田桃子さん (42歳・女性)
お子さん：一男一女
治療：クリゾチニブ

患者の特徴

- EGFR遺伝子変異肺腺癌
- ALK融合遺伝子変異肺腺癌
- KRAS遺伝子変異肺腺癌

キーワード

- ①EGFR・ALK・KRASとがん遺伝子
- ②イレッサ・クリゾチニブと分子標的治療薬